

商 業

科 目 名	単 位 数	学 年	学 科
簿 記	2 単位	3 年 (選択)	普 通 科

教 科 書	簿記（東京法令出版）	副 教 材	完全段階式 標準検定簿記問題集全商 3 級 （東京法令出版）
-------	------------	-------	--------------------------------------

科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を身に付けることを目指す。
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	2 各種取引の処理 掛け取引 手形取引 その他の債権・債務 有価証券 固定資産	- 各種取引に関する基本的な取引および仕訳について理解している。 - 補助簿に関する知識を身に付け、それらの帳簿に記入する方法を習得している。	- 総勘定元帳と補助元帳の関係性について考え、表現しようとしている。 - 取引について具体的なイメージを持ち、どのような処理を行うかを判断できる。
2 学期	販売費と一般管理費 個人企業の純資産 3 決算 決算整理	- 決算整理事項について、その概要や決算整理仕訳を理解している。 - 総勘定元帳の勘定残高と決算整理事項から、損益計算書・貸借対照表を作成する技術を習得している。	それぞれの決算整理事項を行う必要性について考え、自分自身の言葉で表現しようとしている。
3 学期	8 けた精算表の作成 帳簿の締め切り（帳簿決算） 財務諸表 4 会計帳簿 伝票	3 伝票性の概要を理解し、伝票記入方法を習得している。	仕訳帳ではなく伝票を用いて取引を記録する理由について考えようとしている。
1 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 3 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

番号	評価の観点	評価基準
①	知識・技能	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
②	思考・判断・表現	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題に対応する力を養う。
③	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
定 期 考 査	1 学期期末 2 学期期末 学年末 （計 3 回）	
評 価 方 法 （観点番号）	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能（定期考査、問題演習） ②思考・判断・表現（定期考査、グループワーク、レポート） ③主体的に学習に取り組む態度 （授業態度、出席状況、グループワーク、レポート）	

